

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2022年7月1日 226号  
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

パクー養殖プロジェクトリーダー

未来を担う！滝川哲盤さんに聞く



前列左が滝川さん。レダ基地で共にパクーの放流作業に携わった人々と。2022年5月27日

「レダはやればやるほど発展するところです」

レダ基地でパクーの養殖プロジェクトを中心に担っている、滝川哲盤（たきかわのりやす）さんが、6月中旬に一時帰国しました。早速インタビューを申し入れ、書面による回答をいただきました。

まず、お名前と生年月を。

滝川哲盤、1992年10月8日生まれです。

初めてレダに到着したのはいつで、その時のレダの印象は？

2015年、私が大学生の時です。初めてレダに降り立った瞬間の感動は、今でも忘れられません。パラグアイ川が大きくて景色が雄大でした。

Q レダの素晴らしさは、ズバリ、何ですか？

A 無限の可能性を秘めていることです。ご存じの通り、レダは僻地の中の僻地です。環境的に見れば、ほぼ年中暑く、インフラが行き届かない地域であり、人が手を付けたがらない地域です。しかし、だからこそ、何か一つ壁を乗り越えた時の喜びと達成感は格別なもので。また自分自身が思う以上に周りの地域や人々に与える影響は大きいと感じます。レダはやればやるほど発展するところです。

Q 一つ何かを『成す』

といふことは強い決心と諦めない気持ちが必要ですが、その気持ちで取り組めばレダは将来大きく発展する可能性があるところだと強く感じています。

Q そもそも、何故レダを志したのですか？

A 私は大学生の時、レダに来たことがあります。初めてのレダは毎日が刺激的でした。当時70歳前後の高齢の先輩方が汗水を流しながら第一線で仕事をされながら、レダの将来をまるで少年のように目を輝かせて語っている姿に私は感化されました。しかし、当時、青年はほとんどいなく、将来の不安を感じた私は、いつかもう一度レダに来ることを心に誓い帰りました。そして、社会人生活を経て、ちょうど仕事を辞めたタイミングで、ある方からお誘いがありました。そのお話を聞き、仕事に追われた日々で忘れていた、大学生時代にレダで過ごしたときの熱い思いが蘇りました。そして、「ここでもう一度やつてみたい！」と思、レダ行きを決意しました。（次面に続く）



伊達勝見氏の40日追慕礼拝。レダ研修所2階にて。6月14日



レダ基地におけるパクー稚魚の放流。5月27日



動画があります。  
Facebookにて、  
ご覧ください。



稚魚をすばやく丁寧に取り出す。5月27日



養殖池の稚魚を徐々に囲い込んでいく。5月27日



クラウドファンディングで集めた資金で購入・設置した新しい冷凍庫。-30℃に冷凍保存が可。

新しい冷凍庫の操作パネル

**A Q 今、世界の支援者の皆様に最も伝えたいことは？**  
まだ、不足もありますが、今後とも温かく見守っていただけたらと思います。そして皆さんと一緒にレダを造り上げていければと思います。

**A Q 将来の抱負をどうぞ。**  
日本では、国内の養殖会社への訪問や、海外の養殖場に足を運んで、実際にレダで生かせる生産、加工、販売までのノウハウを勉強したいです。あと、レダには山がないので登山がしたいですね(笑)

**A Q 今回、日本で何をしたいですか？**  
まずはレダの養殖を発展させると同時に、レダ近隣のインディヘナの村での養殖を行うことです。その先の将来は、他の貧しい国にも赴き、魚の養殖技術を伝え、その地域、国の食糧問題の解決に貢献することです。

**A Q パクーの養殖プロジェクトで、最も難しいことは？**  
人を動かすことです。パクー養殖では、水揚げ、加工などを従業員ほぼ総動員で行います。立場上、従業員に指示を出す局面が多くあるのですが、気を使ふことも多くあります。何よりチャマココの従業員との信頼関係を得ず指示を出しても、中には言ふことを聞いてくれない人もいます。ですから私は、常に彼らと同じ目線に立つように気をつけています。

**A Q パクーを販売で始めたことです。レダに来て一年以上が過ぎるなか、私はまだパクーを販売でいいないという焦りがありました。構想はありましたがあまり的な事情があり、思うようにはいきませんでした。そんな中、念願の冷凍トラックが到着し、そのタイミングでパクー販売に強い意欲のある青年たちが現れたことも追い風となり、初めてバイア・ネグラでの販売に行けたことが何より嬉しかったです。**  
**Q 沢川さんへのインタビュー（一面より続く）**  
**Q レダで最も嬉しかったことは何ですか？**  
パクーを販売で始めたことです。レダに来て一年以上が過ぎるなか、私はまだパクーを販売でいいないという焦りがありました。構想はありましたがあまり的な事情があり、思うようにはいきませんでした。そんな中、念願の冷凍トラックが到着し、そのタイミングでパクー販売に強い意欲のある青年たちが現れたことも追い風となり、初めてバイア・ネグラでの販売に行けたことが何より嬉しかったです。



## 12 つくる責任 つかう責任

A white infinity symbol with a small arrow pointing to the right, located in the bottom right corner of the slide.

私たちがこれまで考察してきた国際連合（国連）のSDGs（持続可能な開発目標）の12番目は「持続可能な消費・生産形態を確実にする」というものです。これは、私たちにとつて身近な問題ではないでしょうか。

人類は、長い歴史の中であらゆる物を生産して、それを消費することによって、快適な、便利な、幸福な生活を営むことをめざしてきました。イギリスから始まつた産業革命や石油を主力としたエネルギー革命、はたまた近年の A-I（人口知能）の発達などによって、豊かな消費文明の恩恵に浴しています。しかし、高度な消費文明を築き上げた人類は、さまざま問題を抱えてしまつたとも言えます。例えば、

昨年（2021年）、プラスチック資源循環促進法が成立したことによつて、12項目のプラスチック製品の有料化や再利用が義務づけられました。これにともなつて、規制の対象となつたフオーラ、スプレー、ナイフ、ストロー、ハンガーなどを使つてゐるコンビニやホテル、クリーニング店などは、漸次、紙製やその他の原料による製品に置き換わつています。レジ袋の有料化はその象徴的な現象です。ゴミとなつて残るものではなく、焼却可能なものにとつて替わる試みがなされていきます。

「プラスチック循環利用協会」によると、2019年の国内のプラスチックごみ排出量850万トンのうち、プラスチックの素材としての再生利用は22%で全体の約5分の1に過ぎません。残りは焼却されているので、排出された二酸化炭素は地球温暖化の



「ブタランド」生ゴミを資源に見える、企画資源の古典的再生利用法の一つ

原因ともなつてゐるのであります。プラスチック製品は、これまで私たちにとつて簡便に使えて都合のいいものでした。生産側が大きな責任を負いつつ、変化を余儀なくされているのです。したがつて消費者側もこれまでにない脱プラスチック生活へと生活スタイルを変化することが求められるのではないでしようか。それが「つかう責任」ということに関わつてくるのでしよう。

然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようになります」と念の入れようです。それでは、食品ロスはどれほどあるのでしょうか。環境省の調査によると、わが国では令和元年度に、約570万トンの食品ロスが発生。内訳は家庭から約261万トン、事業者から約309万トン発生したとされています。

もつと詳しく述べると、家庭では食べ残し117万トン、直接廃棄107万トン、過剰除去38万トン。事業者別のデータでは食品製造業128万トン、外食産業103万トン、食品小売業64万トン、食品卸業14万トンの順です。この数字を見るだけで、も、どこで食品ロスが多く生じているか、お分かりのことでしょう。それは、家庭の食卓の上と食堂のテーブル上ということになろうか思います。

では食品ロスを減らすには、どうすればよいのでしょうか。環境省はそのホームページで次のように提案しています。

まず「飲食店で食事するとき」、個人、家族、知人など食べ切れるだけ注文し、残れば、店側に持ち帰ることができるか聞いてみる。「買い物のとき」、冷蔵庫の確認の上、買いすぎに注意し、消費期限をチェックする。「調理のとき」、食べ切れる分だけ調理し、食材が余った時は、別のレシピを考える。「保存するとき」は、保存期限を確認して、配置方法など工夫する。「食べきれないとき」は、フードドライブなどへの寄付やお裾分けを検討する。何と驚くほど、こと細やかに紹介しています。それほど、食品ロスは深刻な問題と捉えたいと思います。

事業者などからの食品ロスについては、関係省庁や各自治体などからさまざまなお問い合わせがなされています。「つくる責任」についても論議がされ、いると聞きます。

事業者などからの食品ロスについては、関係省庁や各自治体などからさまざまな要請や指導がなされています。「つくる責任」についても論議がされています。すると聞きます。

身近な点について「つくる責任」・「つかう責任」を考えてきましたが、さらに巨視的な分野にまで私たちにはこの視点を拡大していく必要があります。

一つの村をつくる上でも、街をつくる上でも、自然との調和と持続的な環境創造に欠かせない視点といえるでしょう。(つづく)



## 第23回パンタナール1日研修会を開催



国立オリンピック記念青少年総合センターにて。5月28日

高津啓洋  
N P  
● 柴沼邦彦  
● 「パンタナ  
ルにおける植  
林、ほか」  
● プログラム  
● 「提唱者の  
思想とレダ開  
拓の歩み」

は、和田賢一氏。プログラム全体の骨格はこれまでとほぼ同じでしたが、様々な特色がありました。「パンタナール精神」に込められた真の愛、養殖をはじめとする各プロジェクトの推進を通して得られた知見の共有、

5月13日にバイア・ネグラ市で実行した稚魚放流式の報告3月に家族ぐるみでレダに移住した島田家庭からの映像によるメッセージなど、多世代をつなぐ構成となりました。

パンディセミナーは半年ぶりの開催となりました。隣接する緑濃き神宮の森を越えて流れる、初夏の空気が心地よい一日、代々木の会場に50名が集いました。初めての参加者も多く、中には遠路はるばる駆けつけてこられた方々もいらっしゃいました。

セミナー実行委員長は、大滝順治氏。司会進行役

は、和田賢一氏。プログラム全体の骨格はこれまでとほぼ同じでしたが、様々な特色がありました。「パンタナール精神」に込められた真の愛、養殖をはじめとする各プロジェクトの推進を通して得られた知見の共有、

5月13日にバイア・ネグラ市で実行した稚魚放流式の報告3月に家族ぐるみでレダに移住した島田家庭からの映像によるメッセージなど、多世代をつなぐ構成となりました。

パンディセミナーは半年ぶりの開催となりました。隣接する緑濃き神宮の森を越えて流れる、初夏の空気が心地よい一日、代々木の会場に50名が集いました。初めての参加者も多く、中には遠路はるばる駆けつけてこられた方々もいらっしゃいました。

セミナー実行委員長は、大滝順治氏。司会進行役

は、和田賢一氏。プログラム全体の骨格はこれまでとほぼ同じでしたが、様々な特色がありました。「パンタナール精神」に込められた真の愛、養殖をはじめとする各プロジェクトの推進を通して得られた知見の共有、

5月13日にバイア・ネグラ市で実行した稚魚放流式の報告3月に家族ぐるみでレダに移住した島田家庭からの映像によるメッセージなど、多世代をつなぐ構成となりました。

6月3日午後、東京の会場で、2022年全国総支部長会議を開催しました。東京、神奈川、北日本、関西、九州の各総支部長、および当法人の理事、監事の役員が集い、マスクを着用したままで、対面で親しく話し合うことができました。

会議はまず、伊達勝見氏の逝去に対して哀悼の意を込めて全員で黙祷を捧げた後、伊達氏の入院から今までの経過と今後について、中田代表理事から説明がありました。また、新任理事（和田、大滝）の紹介、新事務局長（和田）と新青年局長（藤生）の紹介があり、これら新しい人事体制への期待と要望とを、中田代表理事が述べました。

続いて、レダに移住した島田家庭の最新映像が上映されました。そして、会議の核心部である、各プロジェクトと全体取り組み状況を、パワーポイントと映像とで共有しました。主な項目は、パクー養殖と販売の現状と計画、食品加工工場設立の準備状況と西嶋氏によるEコマース構想、環境保全牧場整備事業の進捗状況などです。そして各プロジェクト活動を支援するための特別キャンペーンについて話し合いました。その推進に向けて決意を固めました。

休憩後、第10回パクー稚魚放流式典の報告、この7月に出発するチャバボラ（約8か月の奉仕活動）と第22回青年奉仕隊の準備状況、新世代人材（レダの各プロジェクトを担つていく人材）の確保、と続きました。そして閉会後、親しく懇談の時間を持ちました。

## 2022年全国総支部長会議を開催

○ 地球の緑を守る会代表理事、● 「第10回パクー稚魚放流式の報告」藤生輝彦青年局長、● 映像「レダ移住」と「青年ボランティア」島田賢二さん、● 「レダユースの活動」角田愛里香共同代表、● 「レダの現状と今後の展望」中田欣宏代表理事、● 入会案内 ● 質疑応答 ● 感想文 ● 閉会の挨拶（16時終了）

参加者たちの感想文には、「レダプロジェクトにいっそう関心を深めました」「自分も近いうちにレダに行ってみたいです」「レダに感動して涙が出てきました」などの言葉が綴られていました。参加者の皆様、講師陣の皆様、準備から実行までご尽力されたスタッフの皆様全員に感謝いたします。

## レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマートフォンなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。

## 一般社団法人南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15  
岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821  
FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人南北米福地開発協会

Eメール: office@asd-nsa.com

ホームページ: <https://asd-nsa.com>

Facebook: <https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>

## 会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット（印刷済み）、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



<https://asd-nsa.com/nk/>

入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。



<https://asd-nsa.com/sk/>